

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)について」の発表に関する経過(報告)

令和8年3月23日
地震調査研究推進本部事務局

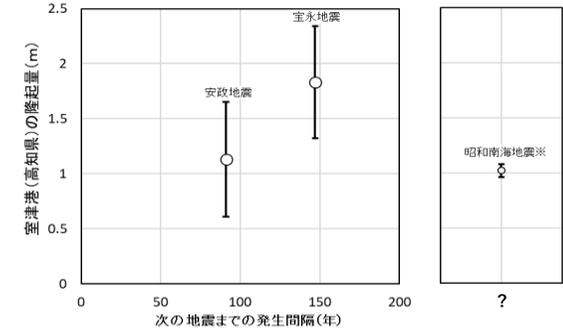
- 第二版において地震発生確率の計算に用いていた、地震時の室津港（高知県）の隆起量の推定値について、今般、新たな知見があったため評価に反映させることとし、地震発生確率に関する部分のみを改訂する（一部改訂）。
- 2つの計算方法を用いて各々地震発生確率を計算した結果、共に最も高いⅢランク※に分類される値となった。
- 地震発生確率についてⅢランクという評価は変わっておらず、国、地方公共団体、住民などは、地震発生に対する防災対策や日頃からの備えに引き続き努めていくことが必要。

※ 30年以内の地震発生確率に基づきランク分けを行っており、海溝型地震の場合、**確率の値が26%以上の場合、最も高い「Ⅲランク」としている。**

1. これまでの経緯

- 地震調査委員会は、防災対策の基礎となる情報を提供するため、将来発生すると想定される地震の場所、規模、発生確率について評価し、これを長期評価として公表。
- 「南海トラフの地震活動に関する長期評価」の第一版は平成13年に、第二版は平成25年に公表。
- 南海トラフ地震の発生確率の計算にあたって、第一版時から用いてきた「時間予測モデル」※については、この概念を計算に用いるべきか否か議論がある。

※地震規模に相当する観測値（室津港の隆起量）と地震発生間隔の比例関係（時間予測モデル）から得られる次の地震までの発生間隔をBPTモデル（ブラウン緩和振動過程モデル）のパラメータの一つである平均活動間隔として適用し発生確率を計算。一方、南海トラフ以外の他地域の海溝型地震では、時間予測モデルに適用できる地震規模に相当する観測値がないため、地震発生履歴のみからBPTモデルを用いて発生確率値を計算している。



2. 地震発生確率の計算方法の主な見直し

1 隆起量データの見直し

隆起量データには誤差があるとの新たな知見を反映した。見直した隆起量データは次回地震までの間隔と概ね正の比例関係にあることを改めて確認。

2 地震発生確率計算モデルの見直し

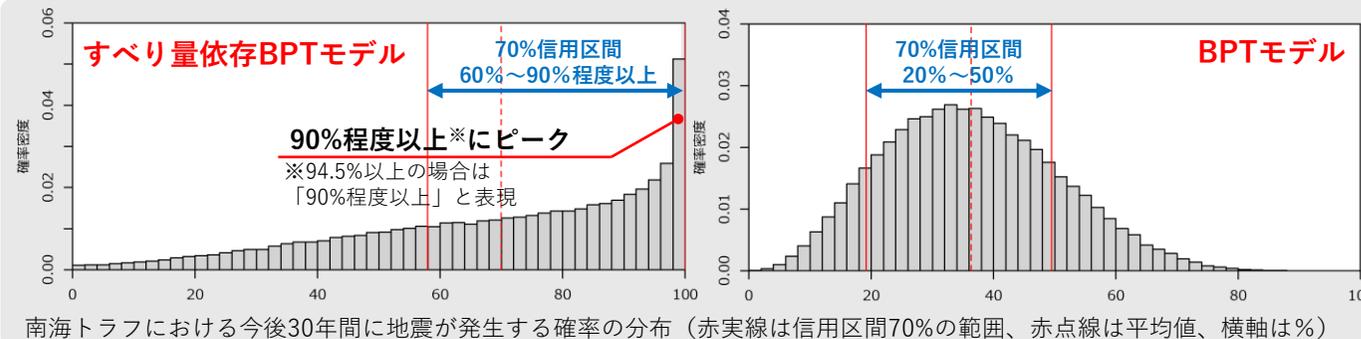
時間予測モデルとBPTモデルを融合した「**すべり量依存BPTモデル**」を新たに採用。**BPTモデル**も使用。これら2つのモデルによる確率は**科学的にどちらが良いのかは優劣つけられない**。

3 データの少なさへの対応

発生頻度が少ない大地震に関するデータのように、少ないデータからでも安定した推定が可能となる統計学的手法を適用して、地震発生確率を計算。これにより、**確率の分布を表すことができるようになり、推定値のばらつきを定量的に評価できる**ようになった。

3. 地震発生確率の見直し結果

2つの計算方法を用いて算出した確率を両方とも提示



M8~9の地震	用いたデータ	ランク (2025/1/1時点の今後30年以内の発生確率)
第二版	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (80%程度)
第二版一部改訂	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (60%~90%程度以上)
	・地震発生履歴	Ⅲランク (20%~50%)

国や地方公共団体等が、防災対策を推進するにあたって、住民等に対して、**最も高い「Ⅲランク」を示すことを強く推奨する**。一方、確率の具体的な値を示す必要があるときも想定される。その場合には、「疑わしいときは行動せよ」等の考え方に基づいて、**2つの計算方法の中でも、より高い方の確率値（今後30年以内で60%~90%程度以上（2025年1月1日時点））を強調することが望ましい**。

本件発表に係る報道の状況等（事務局の参考整理）

地震調査研究の成果を広報するにあたっては、報道機関との協力が必要であり、地震本部事務局からは、本件発表にあたって、報道機関を対象とした説明会を行ったほか、個別の問合せに対しても丁寧に対応している。

※ 以下は、現時点で事務局において確認できた範囲で、報じられた内容・ニュアンスをできるだけ保ちつつ、参考として整理したものであり、必ずしも事務局の見解とは一致しない。

- 各報道機関からは、本件発表直後、まず、以下の事実が、概ね正しく報じられた
 - ・ 地震調査委員会による見直しにより、南海トラフ地震の発生確率は、2つの計算結果があり、どちらも科学的に優劣をつけられないこと、また、値は幅をもって示されること
 - ・ どちらの計算結果も「確率が高い」ことは変わらず、地震調査委員会としては、防災対策の強化を呼び掛けていること

- さらに、確率が2つ示されたことや、幅があることについて、次のような事項を報じるものが多かった
 - ・ 以前より、数字として確率が分かりづらくなった／住民が混乱しないかと不安だ／国は分かりやすい説明に努めるべきだ
 - ・ 一方で、地震現象そのものの不確実性や、今の科学技術の水準を考えるとやむをえない／科学としては誠実な対応だ
 - ・ 地震調査委員会は、防災を推進する上では、高いほうの確率を強調すべきとしている
 - ・ 数字に振り回されず、着実に防災対策を進めることが重要だ

- そのうえで、例えば、次のような意見・主張を示す報道機関もあった
 - ・ 数字を示す意味を再検討するべき／高すぎる確率は、ミスリードを生む可能性がある
 - ・ 防災行動につながる情報発信の工夫が必要だ／どのように確率を示せば、行動に結びつけることができるか、人文・社会科学の知見も取り入れていくべき
 - ・ 地震の確率評価について、科学的評価と、政策的な判断をより明確に分けるべき
 - ・ 観測と調査研究を強化して、予測の精度を向上させるべき

地震本部事務局(文部科学省)による広報活動の概要(令和8年3月時点まで)

- 「南海トラフの地震活動の長期評価」(第二版一部改訂)の公表にあたって、以下の機関に対して説明会を実施。
 - 文部科学記者会、気象庁記者クラブ
 - 自治体・指定公共機関
 - 全国の気象台
- 9月26日の公表時に、地震本部のホームページに説明資料等を掲載。
 - その後、自治体関係者からの問合せ等をもとにQ&A等を掲載。
- 地震本部主催のイベント等の機会を通じて、一部改訂についても説明。
 - 地震調査研究推進本部30周年特別シンポジウム(令和7年10月14日開催)
 - 地震本部地域講演会 in 高知(令和8年2月8日開催)
 - 地震本部ニュース冬号(広報誌)にて特集記事を掲載(令和8年1月27日発行)



30周年特別シンポジウムで講演する平田委員長(当時)

地震本部HPでの特設ページ



地震本部ニュースの特集記事

南海トラフ地震の発生確率見直しに関する認識についてのアンケート調査の結果<速報>

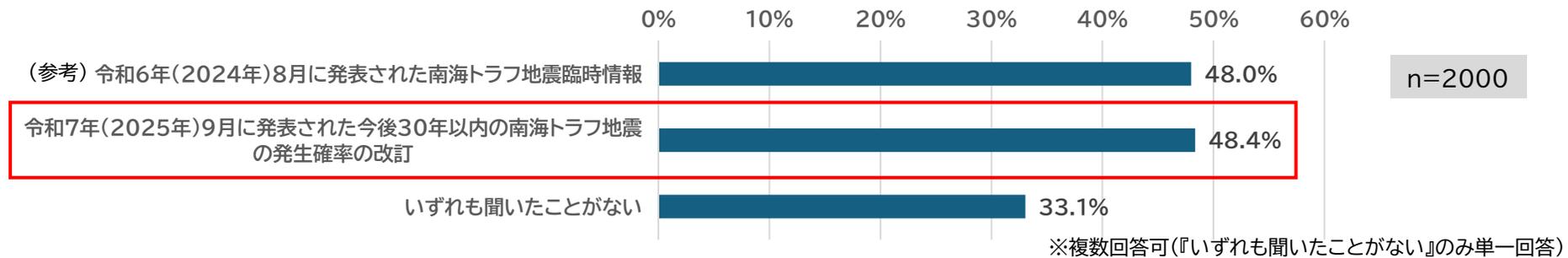
- 地震調査委員会による南海トラフ地震の発生確率見直しについて、認知度、印象等を、ウェブ調査の登録モニターを対象に、アンケート調査を実施した。以降、まずは、その概要及び結果速報を示す。
- 今回は、速報として示すものであり、今後数値が変わりうることには注意が必要である。

調査目的	「南海トラフの地震活動の長期評価」(第二版一部改訂)に対する国民の認識を把握する
調査体制	地震本部事務局(文部科学省地震火山防災研究課)が田中委員、平田委員の助言のもと実施 アンケートの実査は株式会社サーベイリサーチセンターが請負
調査対象	重点受援県10県(静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、大分県、宮崎県)の居住者
調査期間	令和8年2月12日～令和8年2月17日
回答数	2000件(性別・年齢・地域の分布が、国勢調査等に基づく実際の分布に近くなるよう割付)
質問項目	<ul style="list-style-type: none">・ 改訂内容の認知度・ 改訂内容の認識(印象に残ったメッセージ、防災意識への影響など)・ 改訂内容を知ったきっかけ など

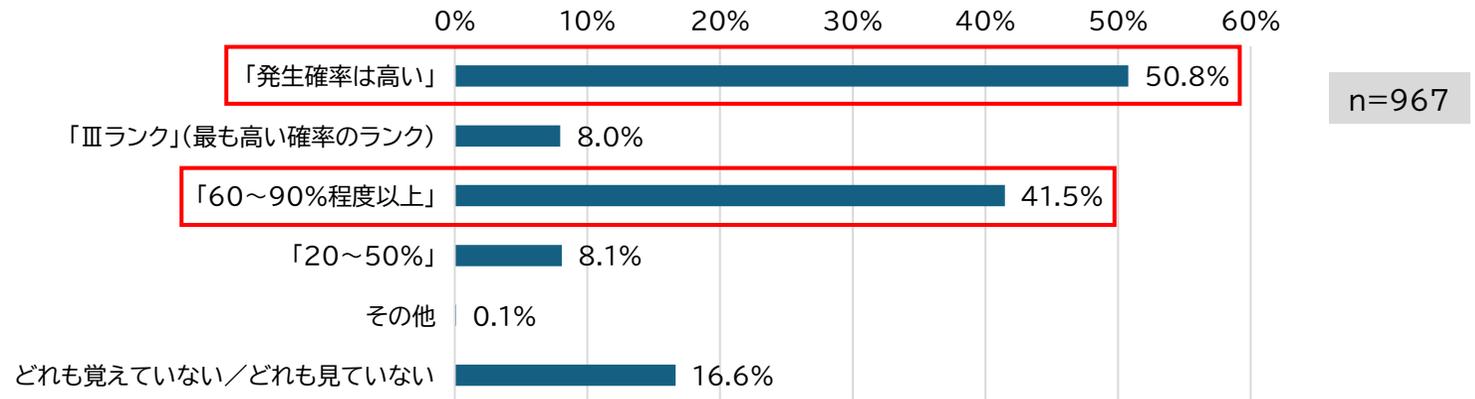
南海トラフ地震の発生確率見直しに関する認識についてのアンケート調査の結果<速報>

- 48.4%が南海トラフ地震の発生確率の見直しを見聞きしていたと回答。
- 見直し内容のうち、「発生確率は高い」「60%～90%程度以上」の表現を見た(または覚えている)と回答した者は、50.8%、41.5%と最も多かった。
- ➡ 地震調査委員会が、まず「発生確率が高い」ことを説明し、必要があれば「60～90%程度以上」(高いほうの確率値)を強調するという伝え方と整合的な傾向がみられた。

Q. 南海トラフ地震に関連して、以下の情報のうち、あなたが見聞きしたことがあるものはどれですか(※)



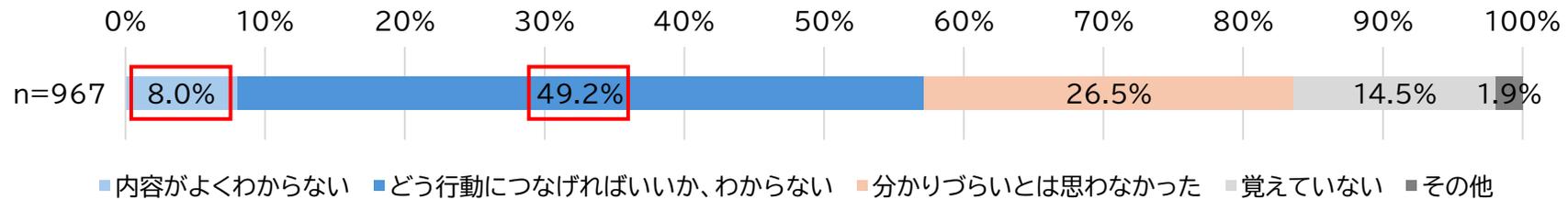
Q. 「今後30年以内の南海トラフ地震の発生確率の改訂」内容について、以下のうち、あなたが見た(または覚えている)表現に近いものはどれですか(複数回答)



南海トラフ地震の発生確率見直しに関する認識についてのアンケート調査の結果<速報>

- 発生確率の見直しを見聞きした層のうち、49.2%が「どう行動につなげればいいのか、わからない」と回答した一方、「内容がよくわからない」は8.0%。
➡ 「分かりづらい」のは、「内容」よりも「どう行動につなげるか」であることを示唆。
- 発生確率の見直しを見聞きした層のうち、「以前ほど備えをしなくていい」と思った回答者は1.7%にとどまった。
➡ 少なくとも見聞きした層では、情報に接したことが直ちに備えの後退につながったとは考えにくい。

Q. 南海トラフ地震の発生確率が改訂されたことを見聞きした時、あなたの印象が一番近いものはどれでしたか(単一回答)



Q. 南海トラフ地震の発生確率が改訂されたことを見聞きした時、地震への備えについて、あなたが思ったことに近いものはどれですか(単一回答)

